

2014年3月期第1四半期 決算説明会Q&A

【2014年3月期Q1実績】

Q: 計測セグメントにおいて、営業利益率が約15%と低下した要因は何か？

A: 全体として会社想定範囲内で着地している。昨年度下期より海外サポート体制の充実を図るため、開発費・販管費を増加させている。結果として、四半期で見ると、売上の伸びに対して費用の増加が先行している。

Q: 販管費増加の理由は？

A: 海外におけるサポート体制拡充のための人員増が主要因だが、為替による影響も加わっている。

Q: 為替の影響は？

A: 実績レートは\$1=99円だった。想定レート90円に対して利益面での円安メリットはあったものの、日本でのビジネスが低調であり、それを打ち消している。また、調達や海外での開発などにより外貨建て費用が増えており、円安がコスト増につながった。

Q: モバイル分野の開発・製造のトレンドは

A: 開発は約6割、製造4割となっており、開発の比重が増えてきている。

【2014年3月期見通しについて】

Q: 日本でのビジネスの見通しについて

A: モバイル分野の市場環境は楽観できないものの、通信デバイス用計測器などのエレクトロニクス分野において取り組みを強化していく。現時点では日本での数値計画は変更していない。

Q: 海外人員投資の効果はいつ頃から見られるのか？

A: 昨年度下期より海外での顧客サポート体制を強化しており、北米・アジアを中心に成果は出始めている。LTE-Advancedなどの開発テーマは山積しており、本格的な成果は今年度下期以降に期待している。